

# YA libra

おとなでもない。こどもでもない。今だから読みたい本

Vol.24

2020秋冬号

小牧市立図書館  
お引越し記念

特集

図書館とわたし

小牧山のふもとで50年以上  
皆さんに愛されてきた小牧市立図書館(本館)は  
2021年春に小牧駅前にお引越します  
永らく図書館をご利用くださった皆さんへ感謝を込めて  
図書館で働く私たちのとっておきの1冊を、思い出ともにご紹介します

## \* YAの皆さんへ \*

現図書館から発行する最後のYAライブラはいかがでしたか？  
これまで現図書館を利用してくださった皆さんへの感謝が少しでも伝  
われれば幸いです。新しい図書館では、ティーンのための本や  
スペースもたっぷりあります。楽しみにしててくださいね (兼)

次号は 2021年春発行予定です お楽しみに♪

YAライブラVol.24 2020年秋冬号  
発行：小牧市立図書館

小牧市立図書館の館長が  
YAの皆さんにおすすめの新刊をご紹介します

# 図書館長のイチ押し!



## 本のリストの本

南陀楼綾繁／ほか著  
創元社 (019.0)

よくみれば、身の回りにはいろいろなリストがあります。この本は「本のリスト」の本です。そんな面白いの?と思う人もいるでしょう。忘れられない本、とっておきの本、コレクションで集めた本など、十人十色の内容です。自分ならどんなリストを作るのか、そんな目で見ると、新たな発見があると思います。読書の入り口としても楽しいですよ。

## YAライブラ 24号目次

書名	ページ	書名	ページ
<b>あ</b> 行		<b>た</b> 行	
赤いペン	3	ダッシュ!	5
いま生きているという冒険	2	ちいさい おうち	5
エルマーのぼうけん	4	図書館戦争	2
<b>か</b> 行		<b>な</b> 行	
かいじゅうたちのいるところ	6	ネガボ辞典	6
銀河英雄伝説	5	<b>は</b> 行	
クローディアの秘密	3	晴れた日は図書館へいこう	2
小僧の神様	3	ブックデザイン365	6
<b>さ</b> 行		ぼくたち負け組クラブ	5
十五少年漂流記	4	本のリストの本	1
深夜特急	4	ほんほんポコポコ	4
続名古屋の喫茶店	3		



図書館とわたし

16



## かいじゅうたちのいるところ

モーリス・  
センダック／作  
神宮輝夫／訳  
富山房  
(EW/カ)

**16** この本は、私が子どもの頃、母に何度も読んでもらい大好きだった一冊です。想像力が無限大である子どもにとって、本はいつでも冒険の世界に行ける魔法のようなもの!大人になった今、これがとても貴重で大切な経験であると強く感じます。

いつになっても本の魔法にかかることができる人として、図書館や子ども達と携わっていきたいです。(N)

17



## ネガボ辞典

ネガティブな言葉を  
ポジティブに変換  
ネガボ辞典  
制作委員会／編  
主婦の友社  
(814.5/ネ)

**17** 私にとって図書館とは、まるでこの本のように、ネガティブをポジティブに変換してくれる場所です。

この本は、少し極端ですが発想が素晴らしく「どんな言葉も自分の考え方、とらえ方次第なのだ」と感じます。たくさん本を読んで、さまざまな考え方を知り、ネガティブなときに考え方をシフトできるようにしたいものです。(K)

18



## ブックデザイン365

パイインター  
ナショナル／編著  
パイインターナショナル  
(022.57)

**18** 思わず読みたくなる素敵な本のデザインがたっぷり詰まった1冊です。本といえば書く人(作者)や読む人(読者)を思い浮かべがちですが、本を作る人(デザイナー)も隔々まで心を込めて、本の世界を表現してくれているのがよくわかります。

本を読むのも見るのも好きな私にとって、様々な時代、ジャンルの本が集まる図書館は、「ジャケ読」を堪能できる、子どもの頃からの夢の場所です。(K)

LIBRARY AND ME

12



## ダッシュ!

五十嵐貴久／著  
ポプラ社  
(F/イタ)

13



## ちいさいおうち

ばーじにあ・りー・  
ばーとん/ぶんとえ  
いしいもこ/やく  
岩波書店  
(EW/チ)

14



## 銀河英雄伝説

田中芳樹／著  
徳間書店  
(913/婦)

15



## ぼくたち 負け組クラブ

アンドリュー・  
クレメンツ／著  
田中奈津子／訳  
講談社  
(933/クア)

# 特集 図書館とわたし

01



## 図書館戦争

KADOKAWA  
有川浩／著  
(F/アヒ)

02



## 晴れた日は図書 館へいこう

緑川聖司／作  
宮嶋康子／絵  
小峰書店  
(913/ミセ)

03



## いま生きている という冒険

石川直樹／著  
理論社  
(290)

**12** さえない高校生3人組のどたばた青春物語です。秘かに憧れていた先輩が、病気になり落ち込んでいるのを助けようと、不器用ながらも団結し、成長していく物語です。ノリとテンポの良い文章で楽しく、一気に読めます。悩んだとき勇気をもらえる1冊です。(N)

**13** 子供の頃、図書館で出会ったこの本は、私の価値観を位置付けた大切な一冊です。詩的な美しい文章、光や音、動きまでも感じられるこの本の世界に入り込み、ちいさいおうちに自分が同化していく体験に心踊り、何度も図書館に通いました。その事が今、図書館で絵本の素晴らしさを伝えていく糧となっています(S)

**14** 当時はやっていた『銀河英雄伝説』や『魔界水滸伝』など長いシリーズを学生では買い揃える事は難しく、当時の貸出上限冊数6冊をめいっばい借りては夜中までかけて読み、また次を借りてと繰り返していました。いまでもこのシリーズが読めるのは図書館の魅力のひとつです。(H)

**15** 誰にも邪魔されることなく思いっきり本を読みたい！本の虫とあだ名される主人公アレック・スペンサーは読書クラブ「負け組クラブ」を作ります。でも、気になる女の子のこと・友情・クラブの運営…とトラブル続き。この物語には何と43冊もの本が登場します。あなただけの大切な一冊みつけませんか？(M)

お図現2皆小  
す書図0さ牧  
す館書2ん山  
めで館1にの  
の働8年愛ふ  
本く通春さも  
と私っにれと  
とたて小てで  
もちく牧き5  
にのれ駅た0  
お想た前小年  
伝い皆に牧以  
えをさお市上  
しまへ越し書  
すへ感し館(本  
感謝します館)  
を込めすは  
込めすは

**01** 図書館と本という思い浮かぶのが「図書館戦争」です。表現の自由がメインのテーマですが、恋愛の要素もあり人気がある本です。映画化もされていますが、舞台となった図書館を設計したのが、令和3年3月末に開館予定の小牧市中央図書館と同じ設計者です。そんな小牧市にもちょっとだけ縁のある本です。(S)

**02** 図書館で起こる小さな事件を、小5のしおりちゃん、クラスメイトの男の子と図書館司書の従姉と一緒に解決していく物語です。図書館で働いている者として、この本を読んで驚かされたのは、図書館の日常や問題をとっても詳しく描いているという点です。図書館の裏側を知りたい方は読んでみてはいかがでしょうか。(K)

**03** 文章や本を読んで「そんな景色が見られるのなら行ってみたい」とか「自分もやってみたい!!」と思ったことはありませんか？  
自分の目で見て、身体で感じること。私は自分の足元が揺らぎそうになった時、図書館でこの本に出会って、一歩踏み出す勇気をもらいました。一日一日が冒険です!!(I)





### 04 赤いペン

澤井美穂／著  
フレーベル館  
(K913.6)



### 05 クローディアの秘密

E. L. カニグズバーグ／作  
松永ふみ子／訳  
岩波書店  
(933/カエ)



### 06 小僧の神様

志賀直哉作  
講談社  
青い鳥文庫  
(K913/シナ)



### 07 続名古屋の喫茶店

大竹敏之／著  
リベラル社  
(596.7/オ)



### 08 深夜特急

第1便 黄金宮殿

沢木耕太郎／著  
新潮社  
(915.6/サコ)



### 09 十五少年漂流記

ジュール・ヴェルヌ／著  
椎名誠・渡辺葉／訳  
新潮社  
(953.6/ベジ)



### 10 エルマーのぼうけん

ルース・スタイルス・ガネット／著  
福音館書店  
(933/ガル)



### 11 ぽんぽんポコポコ

長谷川義史／作・絵  
金の星社  
(ES/ハ)

**04** 日常生活の中でいつしか忘れてしまった、けれど大切な「思い出」を思い出させてくれる、そんな不思議な赤いペンのお話です。

小牧の図書館も新しく生まれ変わりますがこの本の様に、この図書館での大切な思い出を何かの折に、ふっと思い出していただけると幸いです。(M)

**05** これ迄どれだけの本を手渡したのだろう。

多種多様な本に様々な人に出会えた図書館は、人生を豊かにしてくれた場所だ。お薦めの本を喜んでもらうと、何より嬉しく励みになる。

そんな思い出の本書は、家出した少女のアイデンティティの確立を鮮やかに描いた作品。家出先はナント美術館!?

今日も、本と人との幸せな出会いがあるといいナ♪(O)

**06** 中学生の頃、夏休みの宿題の読書感想文を何とか楽にできないかと考えた私は、当時の課題図書の中で1番ページ数の少ない本を図書館で探すことにしました。

そして、見つけたのがこの本です。この本の短編の1つである「小僧の神様」は、驚きの22ページです。ただし、話が短い分、感想文を書くは手こずるかも?(Y)

**07** 僕にとって図書館とは、この本のように、市民の日常に密着した存在であり、そこに暮らす人たちの生活観が色濃く反映された場でもあります。

この本は、名古屋を訪れて喫茶店で過ごすことは、自分の居場所をより確かにし、生活に潤いや安心をもたらすかけがいのない時間と言えるところです。新しい図書館も皆様にとってそんな場所になってくれればと思います。日々の仕事に励んでいます。(H)

**08** 図書館は、未知の世界との扉を開きかけを与えられる場であり、本を開く度にワクワク感を覚えます。

今回お薦めする本は、仕事を辞めて世界を放浪する主人公が、訪れた異国でそれぞれの街での出来事を若い旅人の目から生き生きと描いた作品です。つい自分も何か行動をつい起こしたくなる本ですし、人の価値観や考え方を変える本になると言ってもよいくらい強い魅力を持った本です。(N)

**09** 大海を漂流し、無人島で2年過ごす羽目になった少年達の漂流記は、異世界冒険物のようだ。自分のステイタスを確認しアイテムをとりに行く。チームに出会い難関をクリアしていく。

私にとって、図書館でこの本に出会った事はアイテムを手に入れたことと同意だ。君も図書館で君のアイテムをみつけてみないか。(K)

**10** 私が図書館で出会った本の中で最も印象深かったのがこの本です。初めて読んだのは幼少期でしたが、いまでもよく思い出します。様々な危機をリユク1つと機転で切り抜けるエルマーの姿に、何度も勇気づけられました。童心に帰りたいとき、ほっこりしたい時に読むのがおすすめです!(I)

**11** 私にとって図書館は、子ども達が本と出会う瞬間に立ち合わせてもらう場です。この本は、長男がブックスタートで頂いた絵本で、クタクタになるほど何度も読んだ宝物です。子どもの時に読んでもらった喜びは、心の奥に宿っていて、生きていく糧になっていると思います。みなさんにとってもそうでありますように。(K)

